



PEACEBOAT PEACE おりづるプロジェクト

## ヒバクシャ地球一周 証言の航海

Global Voyage for a Nuclear-Free World  
PeaceBoat Hibakusha Project

ピースボート

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1

TEL03-3363-7561 FAX03-3363-7562

### 第98回ピースボート「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」 おりづるプロジェクト2018 ～核兵器の禁止から廃絶へ 市民の力で進めよう～ プロジェクト概要

#### ●概要

「ノーベル平和賞受賞後初/平和賞メダル・賞状とともに」

NGOピースボートでは、2008年より「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」を行っています。これまでに170名以上の被爆者とともに地球を周りながら、「核なき世界」へのアピールをしてきました。そして今春、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)がノーベル平和賞受賞後初となる「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」(2018年5月8日(火)～2018年8月21日(火))が横浜港を出航します。

今回の航海では、被爆者2名(広島1名・長崎1名)被爆二世1名が世界22カ国25寄港地を訪れ、証言活動を通して核廃絶を訴えます。また、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のノーベル平和賞メダルと賞状を乗せ、世界各地で行う被爆証言会にて現地の人々と共有する予定です。

これらの参加者は、日本政府の「非核特使」として活動します。

#### ●趣旨

今回の航海は、「核兵器の禁止から廃絶へ 市民の力で進めよう」をテーマにします。昨年、核兵器のない世界に向けた歴史的な扉が開かれました。7月には国連で核兵器禁止条約が成立し、これに貢献した核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)が12月にノーベル平和賞を受賞しました。市民の力によって、核兵器は違法な兵器となったのです。

しかしそれでも、核保有国はこの現実を受け入れようとしていません。自らは保有しなくても核兵器への依存を続けている国々も少なくありません。

こうした中、核兵器禁止条約に効力をもたせ、核兵器廃絶を実現するためには、核兵器が人間や社会に何をもたらすのかを伝え、広めていくことが不可欠です。それは、被爆国日本の世界的な責任です。過ちを繰り返してはなりません。

#### ●期間

2018年5月8日(火)～2018年8月21日(火) 横浜発着 計106日間  
(第98回ピースボート「地球一周の船旅」)

#### ●主催団体

ピースボート

#### ●参加被爆者 2名 (広島被爆1名/長崎被爆1名、男性1名/女性1名)

上田 紘治(広島)、倉守 照美(長崎)

#### ●参加被爆二世・継承者 1名

品川 薫(広島被爆二世)

#### ●後援

広島市 / 長崎市 / 平和首長会議 / 日本原水爆被害者団体協議会  
公益財団法人広島平和文化センター / 公益財団法人長崎平和推進協会

#### ●連絡先

ピースボート (担当:野口香澄)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

TEL:03-3363-7561 / FAX:03-3363-7562

MAIL:info@peaceboat.gr.jp <http://www.peaceboat.org/projects/hibakusha/>



ヒバクシャ地球一周 証言の航海  
Global Voyage for a Nuclear-Free World  
Peace Boat Hibakusha Project

PEACE  
BOAT

〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場  
3-13-1-B1  
TEL: 03-3363-7561  
FAX: 03-3363-7562  
<http://www.peaceboat.org>

2018年4月24日

おりづるプロジェクト2018「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」  
参加者 略歴

■被爆者

	<p>上田 紘治(ウエダ・コウジ) 広島被爆 1942年2月15日生まれ 被爆当時3歳 東京都八王子市在住 爆心地から400mにあった自宅の被害状況を確認するため母と入市し被爆。東京被爆者団体元事務局次長。八王子被爆者団体元事務局長。2003年ワシントンDC、2005年NPT会議へ参加し同年、ロス・アラモスを訪れ核爆弾製造工場を見学。2010年NPT会議に参加し市民へ被爆の実相を伝えた。国内では小学生から大学生、留学生、各団体に被爆の実相を話している。</p>
	<p>倉守 照美(クラモリ・テルミ) 長崎被爆 1944年1月8日生まれ 被爆当時1歳 長崎県長崎市在住 爆心地から5.8kmの地点で被爆。母親と幼い兄姉と一緒に防空壕へ避難していたため無事。被爆当時1歳であり記憶はないが、「長崎を最後の被爆地に」という思いから多くの活動に尽力してきた。2017年の3月には高校生1万人署名の高校生たちと在韓被爆者と被爆証言や交流・意見交換などを行った。</p>
<p>■被爆二世/継承者</p>	
	<p>品川 薫(シナガワ・カオル) 広島被爆二世 1950年6月10日生まれ 広島県広島市在住 広島市ボランティアガイド 当時タバコ工場で勤務していた母(当時25歳)が爆心地から2km地点で被爆。これまで当時の話を聞く機会がなかったが、現在広島ボランティアガイドとして原爆の恐ろしさや平和への尊さを改めて感じ、修学旅行生や外国人に広島原爆当時の街を案内している。</p>

※出航時(2018年5月8日)の年齢を記載しています。